

中島警備保障

対話型の研修を重視 法定上回る教育時間



中島邦雄社長

中島警備保障(東京、中島邦雄社長)は、平成元年の創業以来、人材育成を経営の軸に置き研修に力を入れてきた。

警備業法をはじめとした法律関連の講義は中島社長自らが担当し、その他の業務別教育はそれぞれ資格を持った担当者にまかされている。研修のテキストには警備業に関すること以外にも、社会で問題となっている事例を取り上げ、それに対する社員の意見を聞くというディスカッション形式の研修を取り入れている。対話することによって重点を置いた研修は、講師側からの一方通行を避けるという意味からも効果的で、このスタイルを採用したことによ

り、講義中の話限りや私語がなくなってきたという。

また、少し変わったところでは、現任研修の際に福引きを行っている。これは日頃の社員の労をねぎらうことを目的に、社長のボケトマナーで行われているものだが、こぼしたちよっとした心遣いが社員の心をつかむポイントなのかもしれない。

中島社長は営業の工場を廻りだもの、例の愛意目にあい、夜逃げまで経験した持ち主であるが、その後、過酷な生活から自力で

社員の共感を呼び、前向きに仕事に取り組み姿勢を後押ししている。

同社の研修で一番の特長は、新任教育30時間のところを5時間多い35時間、また、現任教育8時間×2の16時間と、それを9時間半×2の19時間行っているところにある。質の高い警備員を育成していくために、いかに教育が大切であるかを示しているといえる。

この法定時間をオーバー

した部分で、いったいどのような研修が行われているかというところ、中島社長の人生観や仕事に対する姿勢を訴えかけているという。

中島社長の経営者としての理念はまず「法令遵守」

にある。本来、企業として法を守るのは当然のことであるにもかかわらず、それが守られていないというところは、企業モラルが低下しているからであり、その根底にあるのが押金主義であることである。儲けさえすれば何をやっても良いのだとする風潮が社会全体の歪みを生んでいると嘆く。

こうした風潮を改めるため、企業経営者は経営哲学を持たなければならぬ。中島社長の経営哲学は、「3書の幸せ」の実現にある。「金」「社」「顧客」の3者が互いに幸せになることを念頭に置き経営に携わることが重要で、そのためには常に相手の立場に立って考えること、そこに「3書の幸せ」実現の鍵がある



ディスカッション形式を取り入れた研修

を行っている。建設現場での交通誘導は危険が少なく、体力的に劣る高齢者でも警備業務が十分に可能であるという中島社長の的確な判断がそこにある。

また、給料日まで待たないという経済的困窮者の社員が全体の3分の1を占める。それに対し同社では前払い制度を徹底させている。週払いを実施している警備業者はあるが、前払いを実施しているところは稀である。当然、資金繰りの苦労は多いが、どんだの生活を体験した中島社長だからこそのできる血の通った経営だ。

警備員との交流を重視する中島社長は常に現場を視察して回っている。しかし、

仕事に十分に勤まるのかという疑問も湧くが、同社は10年前に事故が多くなった道路現場の交通誘導から撤退、現在は建設現場に特化した交通誘導業務のみ



研修時に行われた表彰

現場では警備員の技術的な部分には触れず、労いの言葉をかけるような心がけている。誘導技術は体で覚えるしかないことを自らの体験で知っているからで、それよりも「いかにやる気を出してもらえるか」が重要であると尋ねているからだ。「社員との距離を縮めることによって一体感が生まれ、企業として繁栄するためのベースが築かれる。社員が安心して働くことのできる環境を提



70歳以上の高齢者が元気に働いている



丸井百貨店(北千住)で行われた現任教育



研修時に行われた表彰